

# 続・奇跡はある

(07)

題字・林田八郎

徳永 耕一

## ふるさと納税

二〇二二年一月十五日、私は一路阿蘇郡小国町へと急いだ。大分自動車道をひた走る車のハンドルは軽かった。同町へのふるさと納税三千万円の感謝状贈呈式に臨むためである。私の故郷熊本県阿蘇郡小国町は、熊本県と大分県の県境にある草深い田舎町で、所在を知る人は少ない。しかし、二〇二四年度には、小国町出身の北里柴三郎が、新千円札の表紙を飾ることになっていて、その日を今や遅しと待っている。

ちなみに、北里柴三郎は、慶応大学医学部や北里大学などの設立にも深く関わり、「近代日本医学の父」と称されている。少年時代、私は親と一緒にではなかったために、人とは少し違った生活を送った。そのため、故郷には特別な思い入れがある。それは、その後の人生でいつも心のどこかに深く潜んでいた。

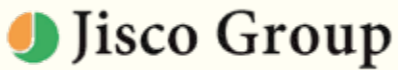
親代わりに養ってくれた祖母や伯父さん、人一倍目をかけてくれた先生方や実家のタクシー会社の従業員さん、そして多くの幼馴染みや親友たち。

書きながら思いを巡らせるうちに、今は亡き同級生たちの顔が浮かんできて、ふと涙ぐむ。一豊、龍ちゃん、邦子ちゃん、恭介、末男、啓紀ちゃん……。

そして、同時に、私を育ててくれた故郷の自然。あの高々と聳え立つ杉の木立ち。何度寝る前に見上げたことだろう。子守唄代わりにいつもせせらぎを奏でてくれた裏の川。ときには濁流となって自然の恐ろしさを見せつけたが。その川に泳ぐハヤや、水遊びのときにいつも身体を休めた愛用の大



小国町贈呈式の様子



ジスコ不動産株式会社  
ジスコホテル株式会社  
ジスコ子ども支援株式会社

長崎県諫早市永昌町4-26

| TEL | 0957-27-1112 | FAX | 0957-26-1777

きな石。外輪山を越えて行き来するときに目の前に現れる雄大な阿蘇山。

自然は何も語らないが、それらは人生の道々で、優しく慰めてくれたり、時には強く生きろと励ましてくれた。

そんな故郷に対して「ふるさと納税」を思いついたのは、二〇二一年秋のことである。

会社創立四十周年記念事業として何か対外的に役立つことをしたいとの思いから、諫早市に1億円を寄付することを考えたが、使途の点で話が煮詰まらず、実現に至らなかった。

その後、肥後銀行堀田勝利支店長から「ふるさと納税制度がありますよ」と紹介され検討した結果、節税のメリットも大きいことが分かり、結局、故郷小国町に対して三千万円を寄付することを決め、肥後銀行経由小国町に申し出た。

ふるさと納税は、純粋な寄付と違って、税金対策の面もあり、手放しで自慢できるものではないが、小国町からは大変感謝された。

一月十五日小国町役場で行われた感謝状贈呈式には小学校時代の同級生の太田文則君、鎗水盛春君、原田計介君の親友三人も参加してくれて、共に誇りと喜びを分かち合った。

親が小国町を出るときに迷惑をかけた経緯もあって、贈呈式後、人知れずホッと大きなため息もついた。

その日の夜は、杖立温泉で仲間四人で宿を取り、ささやかな祝宴をあげた。乾杯のビールの美味さは、いまでも喉元に残っている。

今年再びふるさと納税ができるかどうか、今のところ予断を許さないが、もしまたその余裕が出れば、たとえ少額でも実施したいと思う。

誰よりも、友人たちが喜んでくれるに違いない。

〈次回10月16日掲載予定〉